

# クリンテートシリーズ「調光」の効果確認試験

JAふらの

上村 和寿



慣行区(7月12日)



試験区(7月12日)



慣行区(7月12日)



試験区(7月12日)



慣行区(8月3日)



試験区(8月3日)

<b>試験目的</b>	外気温感応型ハウスフィルム「調光」の実用化試験									
<b>試験作物及び品種</b>	軟白長ネギ(北の匠)									
<b>試験資材及び数量(規格)</b>	クリンテート調光(0.15mm×860cm×70m) 1枚									
<b>慣行資材</b>	コーティング5+1(0.1mm×860cm×70m) 1枚									
<b>栽培方法</b>	<table border="1"> <tr> <td>定植日</td> <td>7月10日</td> </tr> <tr> <td>収穫日</td> <td>11月27日</td> </tr> </table>	定植日	7月10日	収穫日	11月27日	<table border="1"> <tr> <td>【栽植密度】</td> <td>畝幅：30cm</td> </tr> <tr> <td></td> <td>株間：5cm</td> </tr> </table>	【栽植密度】	畝幅：30cm		株間：5cm
定植日	7月10日									
収穫日	11月27日									
【栽植密度】	畝幅：30cm									
	株間：5cm									
<b>資材使用期間</b>	慣行区：6月28日～12月中旬 試験区：6月28日～12月中旬	<b>試験区面積</b>	403㎡							

## 試験結果

- (1)作業性について(慣行品との比較)**  
試験品の方が厚みがあるため重かった。慣行品よりも若干硬い感じがするが問題ない。
- (2)作物の生育状況または、収穫への影響**  
高温、低温による生育差はなかった。温度差について、高温時では試験区の方が1℃～3℃程低かった。また、夜・秋期等の外気温が下がった場合については、慣行区と同等の温度であった。
- (3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について**  
【優位点】：夏期の高温時ではハウス内の昇温を抑制できる。秋期の低温時ではハウス内の慣行区と同等の保温効果がある。
- (4)資材の強度・耐久性・崩壊性について**  
強風時、慣行品と同様の耐久性があり問題なかった。
- (5)促成・抑制効果について**  
夏期、秋期とも慣行区と比較しても差はなく問題ない。
- (6)保温効果について**  
厚みの差による影響もあると思うが、保温については問題なく使用している。次年度、春先などの低温時についても同様に確認していきたい。
- (7)雑草・病害虫の発生について**  
問題なし。

## モニター感想

慣行品と比較すると涼しいため夏場の作業が楽であった。軟白ネギにとっても、高温障害が抑制されると思う。

今年は天候が良くないことから栽培時期を変更したため、夏場の展張期間は約10日間となり短かった。調光の昇温抑制は確認できたが、次年度は春先の保温効果と夏場の展張期間を長くし、調光の効果を十分に確認した中で高温障害抑制・作業性の向上に活用していきたい。

### JA担当者の感想(中富良野支所 生産資材課 松田氏)

高温期の対策として遮光ネットを使用しているが、かけ外しの手間がかからないことが大きな魅力だと感じる。

当地区では軟白ネギの他にミニトマト、メロン等を栽培しているため、このような機能を持ったフィルムは普及拡大が期待できるが、厚みがあることと価格が高いことがネックであると感じた。

### 今後の使用について

改良して欲しい。  
厚さを0.1mmに改良してほしい。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 調光フィルム

4 クリントレート

5 機能性マルチ

6 育苗資材

7 不織布

8 その他